

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 12 月 12 日

【評価実施概要】

事業所番号	3671300550
法人名	社会福祉法人 那賀町社会福祉協議会
事業所名	グループホーム 平野のどかの里
所在地	徳島県那賀郡那賀町平野字妙見前1番地の1 (電話) 0884-64-1234

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 20 年 12 月 4 日

【情報提供票より】(平成 20 年 11 月 18 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 3 月 25 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	11 人
利用定員数計	9 人
常勤:7人、非常勤:4人、常勤換算:7.8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造り
	2 階建ての 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	無	その他実費
敷金	有(円)	有の場合償却の有無	有	有/無
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有の場合償却の有無	有	有/無
食材料費	朝食	- 円	昼食	- 円
	夕食	- 円	おやつ	- 円
	または1日当たり		780 円	

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 11 月 18 日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.6 歳	最低 67 歳	最高 96 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	日の谷診療所
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は旧小学校の廃校跡を改造し、山あいののどかな集落到に立地している。温かく協力的な地域性に支えられ、職員は事業所と地域との関係性の強化、理念に謳われている「馴染みの居場所づくり」に取り組み、利用者は住み慣れた地域でいきいきと生活している。また、地域で行われるほとんどの行事は隣接している体育館や運動場が会場となることが多く、職員は行政、地域住民と連携を図りながら、利用者が様々な催し物に楽しく参加できるよう、細やかな支援がなされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題である市町村との連携、職員の異動等による影響への配慮、職員を育てる取り組み等は、全職員で話し合い検討するなど改善されている。しかし、家族への報告、鍵をかけないケアの実践に関しては改善するまでには至っていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者はサービス評価の意義や目的を職員と話し合い、自己評価は全員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は利用者、家族、地域包括支援センター職員、老人クラブ会長、地区民生委員、町介護保険担当者等の参加を得て、本年度は3回開催している。協議内容は事業所の行事計画、実施状況や職員の異動の報告、外部評価の課題点等を話し合い、参加者からも積極的に意見、要望等が出され、サービスの向上に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	事業所は行事や生活場面での利用者の様子をスナップ写真に収め、コメントを添えて毎月家族に伝えたり、職員の異動等もその都度便りで報告している。意見、要望等は家族が伝えやすいよう来訪時には気軽に声かけを行い、話しやすい雰囲気づくりに配慮している。金銭管理に関しては収支の明細書を家族に送付し、出納帳は明確に整理しているが確認の印・サインがされていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所は地域の文化祭や秋祭り、運動会、芸能祭等に進んで出向き、小中学校のボランティアスクール、高校生の職場体験、研修医の実習、視察やボランティアの受け入れなど積極的に取り組んでいる。天気の良い日には散歩に出かけ、地域の人たちと気軽に言葉を交わしたり、近くの人たちからは旬の野菜や果物が届けられたり、日常的に交流を図り、顔馴染みの関係を築いている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所は利用者が住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けることを支えるため、地域密着型サービスの意義を全職員で確認し、従来の理念に加え、果たすべき役割を反映した内容の理念をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には必ず理念を伝え、理解してもらえよう努めている。また、ミーティングや申し送り時には職員間で話し合い、理念、方針が日常のケアに活かされるよう意識づけがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は地域の文化祭や秋祭り、運動会、芸能祭等に進んで向うき、小中学校のボランティアスクール、高校生の職場体験、研修医の実習、視察やボランティアの受け入れ等に積極的に取り組んでいる。天気の良い日には、全員で散歩を楽しみ、地域の人たちと気軽に言葉を交わすなど、顔馴染みの関係を築いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者はサービス評価の意義や目的を職員に伝え、全員で自己評価に取り組んでいる。外部評価の結果はミーティング等で話し合い、改善に向けて検討するなどサービスの質の向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者、家族、地域包括支援センター職員、老人クラブ会長、地区民生委員、町介護保険担当者等の参加を得て、本年度は3回開催している。協議内容は事業所の行事計画や実施状況、職員の異動等の報告の他、外部評価の課題点等を話し合い、参加者からは積極的に意見、要望等も出され、サービスの向上に活かされている。	○	運営推進会議は、2か月に1回、開催されるよう取り組みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所で毎月開かれるケアカンファレンスには、地域包括ケアセンター所長が毎回出席され、積極的な意見交換が行われている。市町村担当者とは事業運営面での課題点等を話し合うなど、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所は行事や生活場面での利用者の表情をスナップ写真に収め、コメントを添えて毎月家族に報告し、職員の異動等もその都度便りで伝えている。金銭管理に関する収支明細書は家族に送られ、出納帳は明確に整理されている。しかし、確認の印・サインはされていない。	○	金銭の出納内容を家族が確認したことがわかる印・サイン等が求められる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族が意見、要望等を伝えやすいよう、来訪時に気軽に声かけを行い、話しやすい雰囲気づくりに配慮している。運営推進会議では利用者、家族からの発言も多く、外部者に意見等を表せる機会となっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の異動や離職に伴って発生する利用者への影響を深く理解している。離職等、やむを得ない場合には自宅待機の顔馴染みのパート職員にきてもらったり、引継ぎの期間を考慮するなど最善の努力がはらわれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所は月1回の内部研修や地域包括支援センター開催の研修会にも積極的に参加している。また、職員各自に応じた外部研修の機会も確保し、研修内容はミーティング時に報告し、全職員で内容の共有が図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所はグループホーム協会に加入し、各種研修会に参加した折、他法人と積極的に交流が図られている。また、地域の同業者とは気軽に行き来し、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用開始時には、利用者の在宅生活での状況や経緯等を家族とよく話し合い、事業所の見学を通して、職員や他の利用者に徐々に馴染めるよう、利用者本位の柔軟な支援に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として敬い、昔の風習や生活の知恵を学びながら共に暮らし、個々の思いに共感して支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉や言葉にしづらい思いを、日々の行動や表情からくみ取り、暮らし方の希望や意向の把握に努めている。意思疎通が困難な方には、家族や関係者から情報を得るなど、利用者の立場に立った検討がなされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が地域でいきいきと暮らし続けるための課題や自立に向けたケア等を本人、家族、関係者間で話し合い、出された意見、アイデアを反映するなど、利用者一人ひとりの「できること」に着目した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、毎月のカンファレンスでは、職員の日々の関わりのなかでの気づきや本人、家族の意向等を話し合い、実情に即した見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	管理者は在宅で認知症高齢者のお世話をされている近隣の人たちから、困りごとや接し方についての相談を日頃から受けている。家族の緊急時や自宅で介護が困難になった際には、事業所の多機能性を活かし、ショートステイ等、臨機応変かつ柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族が希望されるかかりつけ医の受診等を柔軟に支援している。受診時の介助や情報の伝達方法については家族と話し合い、合意が得られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所は重度化した場合や終末期の人を対象にはしていない。過去に家族の要望で、看取り期に至る直前までホームで過ごされた方もおられ、契約時には利用者、家族の意向を何うとともに、事業所が対応し得るケアについて説明している。しかし、重度化に伴う意思確認書等の作成や全員で方針を共有するまでには至っていない。	○	利用者や家族が安心してサービスを利用できるよう、日常の健康管理、急変時の対応等を関係者間で話し合い、統一した方針を明文化するなど全員で共有できるよう取り組まれない。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者、職員はミーティング時や研修等で個人情報保護に関する話し合いを行い、意識の向上を図るとともに、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りを損ねない対応の徹底に全員で取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れのなかで利用者が今何をしたいか意向を把握し、その日の体調、その時の気持ちに配慮しながら、希望にそった柔軟な支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の人たちから旬の食材が届けられ、メニューは利用者得意の郷土料理となることも多い。職員は盛り付けや後片付けを利用者と一緒に行い、一人ひとりの生活する喜びをさりげなく支援されている。和やかな雰囲気、昼食時間は笑顔も多く見られる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	季節に合わせて入浴剤を使用したり、ゆず湯等の工夫がなされ、職員の声かけや対応によって、ほぼ全員が毎日入浴を楽しまれている。入浴時は利用者の体調に十分配慮し、安全を考慮した適切な支援が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫の先生だった利用者が職員や他の利用者のお手本となって刺繍や小物作りを伝授したり、俳句に親しむ利用者もおられ、作品は居室や廊下の壁面に展示している。郷土料理が得意な利用者はそれにつわるエピソード等を楽しく職員に話されるなど、役割、気晴らしの支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い穏やかな日には、事業所周辺の散歩に全員で出かけている。時折近くの喫茶店まで足を延ばし、コーヒーを楽しんだり、お店で飼っている馬とふれあうなど、餌をやる時が利用者の笑顔が一番輝く時だと話される。また、福祉バスを利用して全員で地域の催しに参加し、外食や買い物等を楽しむなど、家族と親しくふれあう機会づくりとなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は玄関に鍵をかけることの弊害を理解し、見守りを強化するなど、一時期鍵をかけない取り組みをされていた。しかし、山間部に位置する事業所周辺には山が迫り、外に出られた利用者の様々なリスクを考慮し、家族や関係者等と話しあい、外からは自由に開けられるが、内側からは施錠をされている。	○	外出しそうな気配を職員が察知したら、さりげなく声をかけたり一緒に行動するなど、日中は鍵をかけずに、利用者の安全面に配慮した自由な暮らしを支援されるよう、今後のさらなる取り組みに期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所は日頃から地域住民や消防署、水道組合等と防災に関する連携を図り、火災発生時の消火対策、災害時の避難場所の確認等、協力体制を築いている。また、事業所では自主防災、避難訓練を利用者、学童、職員等で行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者が1日に摂取した食事、水分量を把握し、日々の支援記録に残すなど全員で共有している。栄養士資格を有する職員がカロリーの過不足や栄養バランスに配慮し、利用者の食べ慣れた旬の食材を献立に加えたり、体調に応じて刻み食、流動食を取り入れる等の支援も行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	旧校舎を改造した共用空間は、馴染み深い木の温もりが感じられ、大きく開かれた窓からは、四季に移ろう山里の生活が体感できる。利用者は明るい家庭的な雰囲気の中、調理する音や匂いを感じながらゆったりとくつろがれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた日用品や家具類、ラジオ、手芸用品等が持ち込まれ、本人手作りの作品(手芸品、俳句、写経)等が飾られ、個性ある居室づくりとなっている。また、ひ孫や家族との写真等が身近に置かれ、利用者が安心して居心地よく過ごせる配慮がなされている。		